

## 第15回 阿賀野川自然再生モニタリング検討会 議事概要

### 【開催概要】

開催日時： 令和6年12月2日（火）13:30～16:30

開催場所： 阿賀野川河川事務所 2階会議室

議事次第： 1. 現地視察

2. 開会

3. 挨拶

4. 出席者の紹介

5. 議事

6. 閉会

### 【議事】

#### (1) 規約の改定

主な意見 特になし。

#### (2) 第14回検討会でのご意見

主な意見 特になし。

#### (3) 中期的対応箇所のモニタリング状況について

##### 1) 早出川地区 河原（ワンド）の再生

（A委員）

- 生物の生息の場を決めている大きな部分は、流速と水深の組み合わせである。流速と水深の組み合わせと魚類の生息の傾向のパターンを見つけられれば良いだろう。切り下げ量やワンド形状を決める際には、水位と頻度だけで決めるのではなく、流速と水深を参考にできるとよいのではないか。
- 一定以上の洪水よりも、中規模ぐらい洪水の時の方が川の形は変わるデータがある。中規模の洪水で維持される形状が長期間維持されている河川の形状となるので、ワンド形状などを検討する際に参考にできるとよい。

（事務局）

- ご指摘の点を整理する。

（B委員）

- ワンドに水を引き込む際に、越流堤のような構造は考えられないか。

（事務局）

- 越流堤について、可能であるのかを含めて、事例があれば確認する。

(B 委員)

- 植物調査を秋季に実施しているが、可能であれば春～初夏にも補足で調査できると絶滅危惧種等が確認できる場合もあるので有効である。

(事務局)

- 植物調査は可能な範囲で取り組むようにする。

## 2) 沢海地区 浅場の再生

(A 委員)

- 先程と同じになるが、(浅場の) 形状を決める際は、人間の恣意的なものではなく、川が自然に作った地形を参考にできるとよい。

(事務局)

- 阿賀野川には、ハクチョウが実際にいる（自然に形成された）浅場があるので確認する。

(C 委員)

- 横雲バイパスの下流の地元ではツルガシマと呼んでいる箇所は、伐採後にハクチョウが飛来するようになった。今年は調査しているのか。

(事務局)

- 伐採前のジャングルのような環境は外敵が多い場所であった可能性が考えられる。伐採後に、水深と流速が望ましい条件になってハクチョウが飛来してきているのではないかな。
- 今年の調査は沢海で予定している。

(D 委員)

- 阿賀野川におけるハクチョウのねぐらは、外敵が近づきにくい、砂州のような、中州のある環境が使われている。また、中州の状態、流れの状態、風の状態等ハクチョウが集まる要因は多数ある。
- ハクチョウの利用している箇所はヤナギの繁茂が少ない傾向があるため、沢海の浅場では、ヤナギの繁茂に注意する必要がある。
- 浅場を整備しても、早くに草地化する可能性がある。

(事務局)

- 沢海におけるモニタリング調査では、ヤナギ類の調査も行っていく予定である。

(B 委員)

- 浅場でヨシ等の湿生植物の定着を促すとあるが、どのようにするのか。

(事務局)

- 人為的にヨシ類をもってきて、ヨシ類定着のきっかけとすることも検討している。

(D 委員)

- ワンドの出口が閉塞すると、鳥類の種数が減る事例がある。ワンドは、本川との接続が重要であ

る。植生も単調であると、生息する鳥類の種数は少ない傾向になる。

(事務局)

- 整備の際に鳥類の生息を意識して検討する。

(C委員)

- 生物のための環境の整備ではあるが、子供たちの遊べる環境であるとよいのではないか。遠浅の浅場は皆が利用する場所になるのではないかな。

(事務局)

- 事業とは別に、何かできないか検討したい。

### 3) 大河原樋管、千唐仁樋管 連続性の確保

(C委員)

- 魚道は自然石を活用したり、休憩場所がある構造とするとよい。

(事務局)

- ベースはコンクリートになるが、表面に石を用いることを検討する。
- 土嚢による実験を踏まえて魚類が上りやすい魚道を設計していく。

(B委員)

- 検討している流路のスケールに適用できるかは不明であるが、幹線排水路と水田の落差の解消には、双翼型魚道が有効であった。

(事務局)

- ご指摘を参考にしながら、本事業では初めての事例になるので、やってみて、修正するような手順も考えられる。

(C委員)

- 参考情報だが、揚川ダムの魚道は石を使用しており、魚類の遡上状況もよい。

(事務局)

- 情報ありがとうございます。

(D委員)

- 魚道の有効性を考えるためには、河川から水田へ遡上する理由の整理と用水の利用状況を整理する必要があるのではないかな。

(事務局)

- かんがい期、非かんがい期の整理はしている。次年度の整備に向けて、検討を進める。

### (4) 今後の予定

(A委員)

- イギリスなどでは、自然再生に投資をして前向きに取り組んでいる。阿賀野川はポテンシャル

が高い河川であり、これまでの知見を活かしつつ、最新技術を活用して、明るい展望をもって事業を継続していただきたい。

以上